

那須の歴史
再発見!

那須町の 地域文化遺産

vol.10



「開拓」碑

今回は、新高久開拓と「開拓」碑を紹介します。

新高久開拓は、昭和21年に2つの班からなる地元入植者たちで構成された開拓です。

戦後直後、栃木県内では陸軍那須野飛行場（那須塩原市埼玉）、金丸原飛行場（大田原市南金丸）、壬生飛行場（壬生町）跡地に開拓増産隊基地農場（黒磯・金丸・壬生）が設立され、農家の二男・三男や引揚者などが入植前に営農等の訓練を受けました。新高久開拓は、金丸で訓練を終えた地元出身者12名（高久班）と黒磯で訓練を終えた地元出身者15名（那須班）が那須街道近辺の旧宮内省御用林（昭和22年からは林野庁所管）に入植したことから始まりました。開拓当初は、松林を切り開

き、ダイナマイトや戦車を改造したブルドーザーを使い伐根が行われました。伐採した松は、空襲で被害を受けた宇都宮市の復興に利用されたといえます。また、当初は松林全域を開墾する計画でしたが、那須街道沿いの79haは風致維持のため遺され、現在は日光国立公園やアカマツ・クロマツの材木遺伝資源保存林となっています。私達を楽しませる那須街道の景色も先人らの努力で遺されたものなのです。

開拓者らは、昭和27年から新高久開拓農協として法人化し開拓に従事しました。昭和27年からは冷害の影響もあり、新高久を含む高久地区の人々により、高久第二用水土地改良区が結成され、稲作転換のための用水路工事が着工されました。那珂川からの取水予定が各地の反対から高尾股川からの取水に変更されたり、重い工事費の負担もありましたが、稲川時県議会議員の尽力や開拓者の負担金を近隣住民が農作物を担保に農協から借入などして、昭和32年に完成しました。これにより高久

地区の開田は進められました。この工事に関する記念碑（水路之碑）は愛宕山の入口にあります。

また「開拓」碑は元の位置より現在移転し、高久第6自治公民館に移設されています。

松尾芭蕉だけでない、高久地区の歴史を物語る大切な石碑です。

▼問合せ 那須歴史探訪館
☎ 74・7007



水路之碑

3月号から「那須町の地域文化遺産」は生涯学習だよりに移動します。

かつこう

2月は一年の中でも寒さが最も厳しい時期ですが、節分や立春といった行事を通して、少しずつ春の気配を感じ始める月でもあります。節分には豆まきをして一年の無病息災を願い、家族や親しい人と季節の話題を交わす時間が、心を温かくしてくれます。冬の寒さの中にも、こうした行事が日々によさしい彩りを添えてくれますね。

また、雪景色や澄んだ空気など、冬ならではの美しい風景を楽しむのもこの季節の魅力です。立春を過ぎると暦の上では春となり、寒さは続くものの、日差しや空の色、夕方の明るさに少しずつ変化が感じられるようになります。体調管理に気を配りながら、季節の行事や日常の中にある小さな楽しみを大切に、春の訪れを心待ちにする穏やかな日々を過ごしていきたいでしょう。



◀那須町 LINE 公式アカウントはこちらから追加できます



◀那須町 LINE 公式アカウント友達登録後の流れはこちら

こんにちは

赤ちゃん



令和6年11月生まれ

いざな
薄井 維真ちゃん

いざなちゃんは…
元気の秘訣は納豆、豆腐、ヨーグルト!!

「こんにちは赤ちゃん」コーナーの写真を随時募集しています。
詳しくは企画政策課広報広聴係（☎72-6935）まで。

町の世帯と人口

（1月1日現在・住民基本台帳）（）の数字は前月比

・世帯数	10,871 世帯	(- 13)	出生	7人	(+ 5)
・人口	23,290 人	(- 36)	死亡	37人	(+ 2)
	男 11,621 人	(- 20)	転入	61人	(- 11)
	女 11,669 人	(- 16)	転出	66人	(+ 19)
			その他	-1人	